

山口市芸術家育成支援事業

第11回やまぐち新進アーティスト大賞

第11回やまぐち新進アーティスト大賞受賞者

さ さ き のりこ
佐々木 範子

応募アーティスト数：10名

最終選考ノミネート者：7名

う え だ 上田	こうさち 幸吉	(58)	かたやま 片山	りょうこ 涼子	(36)
さ さ き 佐々木	のりこ 範子	(48)	たに 谷	やすひろ 康弘	(37)
つちや 土谷	ひろこ 寛子	(37)	はらだ 原田	かずあき 和明	(46)
よしだ 吉田	あかり 朱里	(30)			

(50 音順・敬称略、年齢基準日：審査日)

(総 評)

新進アーティスト大賞10年の記念展を行って一区切りついた後の第11回は、絵画、工芸、写真、その他の分野から10名の応募があった。審査会場での投票の結果、7名が最終選考にノミネートされ、二回目の投票で3名が大賞候補者となった。ここで審査員がそれぞれ意見や感想を述べ、協議し、最終的に挙手によって大賞受賞者を佐々木範子氏と決定した。

佐々木氏の表現力の高さは審査員全員が認めるものであった。今後も地元扎根した活動と、さらなる活躍を大いに期待したい。

(第11回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員長 斎藤郁夫)

(やまぐち新進アーティスト大賞選評)

3 作品「果ての実」「陽光」「一粒」は地域の自然をモチーフにブルー系統の単色で描かれた水彩画である。それぞれの作品で白(余白)を効果的に取り入れているところが印象的で、巧みな構成力と高い描写力を感じる。また単色にも関わらず、色の濃淡を使い分け、それぞれ異なる印象を与える 3 作品に仕上げた表現力にも感心する。作者の作品集から近年の精力的な創作活動がうかがえ、今後のより一層の飛躍に期待したい。

(第 11 回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員 平川和明)

・・・第 11 回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員・・・

会田 大也 (山口情報芸術センター学芸普及課長)

石崎 泰之 (山口県立萩美術館・浦上記念館副館長)

斎藤 郁夫 (山口県立美術館学芸参与)

平川 和明 (山口大学教育学部講師)

水谷由美子 (山口県立大学国際文化学部長)

大和 保男 (陶芸家)

(50 音順・敬称略)

「第11回やまぐち新進アーティスト大賞」

受賞者：佐々木 ^{さ さ き} 範子 ^{の り こ}
肩書き：画家



PROFILE

1972 年 山口県周南市生まれ

1995 年 金沢美術工芸大学美術工芸学部
美術学科絵画（油絵）専攻 卒業

大学卒業後、2010 年より本格的に創作活動を再開しました。日々の普通の生活の中で出会った物や人を描いています。それらは、すべて、私にとって大切なありがたいものです。小さな幸せを感じられる風景を描きたいと思っています。絵画教室、美術講師や美術部の活動など、地域の皆様と一緒に「美術」を楽しんでいます。『美術っていいね』と思ってもらえる人が増えることを願い、今後も続けていきたいと思っています。

受賞コメント

この度は、やまぐち新進アーティスト大賞という栄えある賞をいただきありがとうございました。励まし、支えてくださった皆様方に心より感謝申し上げます。

この受賞は、今後の創作活動への大きな自信へとつながりました。とても心強く、本当に嬉しいです。

今後も精一杯頑張ってまいりますので、ご支援ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

（やまぐち新進アーティスト大賞審査対象作品）



「果ての実」



「陽光」



「一粒」

山口市芸術家育成支援事業

第12回やまぐち新進アーティスト大賞

第12回やまぐち新進アーティスト大賞受賞者

コサカダイキ

応募アーティスト数：9名

最終選考ノミネート者：9名

けい な わ た
K. Nawata

コサカダイキ

せ ん お ふ ね
Sen Ofune

テラダサチコ

ハセガワタカシ

ふじい しん
藤井 心

みやけ まりこ
三宅 麻里子

もっしー らんどすけーぶ あーと ばい の が あ る
MOSSY Landscape Art by nogaaru

やまね
山根 みどり

(50音順・敬称略)

(総 評)

今回は9人の方がノミネートされ、絵画、写真、イラストなどの平面作品や立体作品のほか、新たに音楽作品も出品された。新進アーティスト大賞の新たな方向性を示すものでもあるとして審査員たちの話題となり、歓迎する意が示された。

賞の選定では、各審査員の推す作品が分かれて、長い議論が行われた。作品の表現（内容とともに技術的なものも含めて）の必然性が、おもな議論の対象であったと思う。最終的に、山口市がアーティストを応援する本賞の意義も確認しながら、大賞を決定した。

(第12回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員長 斎藤郁夫)

(やまぐち新進アーティスト大賞選評)

今回の山口新進アーティスト大賞受賞の小阪大樹氏の作品は、フォトリアリスティックな技法で描かれた寓意的な絵画作品である。イラストレーターとしての仕事をこなしつつ、自らの創作に向き合う際に生まれてくる葛藤などを起点としている、と作品説明に書いてある。

作品は、世界に対する自らの身体や身の置きかたについて象徴するような、一種のファンタジーとして描かれているが、透視図法や光の描き方が傑出している。歴史において多くの画家が向き合ってきた「なぜ絵を描くか」「見るとは何か」という問いに、正面から向き合い、自分の絵筆で格闘していることが想起される。

アイデアやユニークさを堅実な技術で支えているということが審査の中でも評価された。今後もより研鑽を積まれ、表現としての強度を高めていかれることを期待している。

(第12回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員 会田大也)

・・・第12回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員・・・

会田 大也 (山口情報芸術センター学芸普及課長)

斎藤 郁夫 (山口県立美術館学芸参与)

田辺 武 (彫刻家)

平川 和明 (山口大学教育学部講師・第1回やまぐち新進アーティスト大賞受賞者)

水谷由美子 (山口県立大学名誉教授)

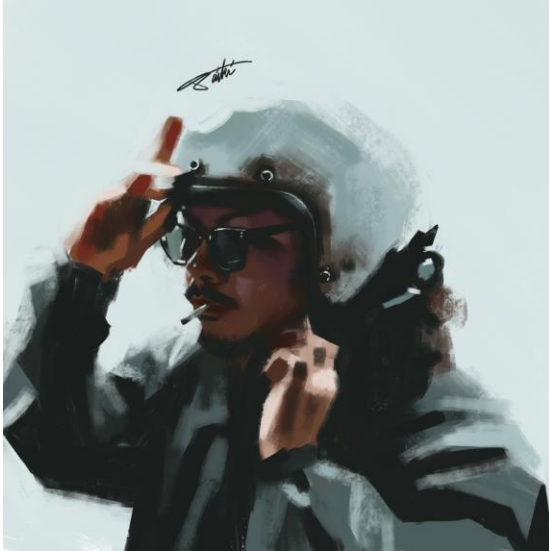
大和 保男 (陶芸家)

(50音順・敬称略)

「第12回やまぐち新進アーティスト大賞」

受賞者：コサカダイキ
肩書き：イラストレーター

PROFILE



1995 年 山口県防府市生まれ
2014 年 南陽工業高校卒業
2014 年 マツダ株式会社 就職
2019 年 フリーランスイラストレーター

広告、雑誌等のイラストを手がけるイラストレーター。乗り物イラストを得意とし、水彩で暖かく優しい、デジタルでかっこいいを提供している。

受賞コメント

小学生の頃描いた絵が賞をとり、それが唯一の自分のアイデンティティーだ感じていました。

そこからイラストレーターになり今年で4年目です。そう簡単に結果が出るほど甘い世界ではありません。自信もなくなり何度も挫折しそうになりました。

ですが、今回このような栄えある賞をいただけた事で自分の作品への自信が取り戻せ、小学生の頃に感じていた喜びと同じものを今も感じられています。ありがとうございます。

これに満足せず、これからも更なる良い作品を生み出していけるよう頑張っていきますので応援のほどよろしくお願いいたします。

(やまぐち新進アーティスト大賞審査対象作品)



『描きまくるしかないか』



『虚勢「あーだこーだ、なんやかんや、」』

